

【取組内容①】「小規模校におけるクラウドを活用した複式指導の取り組み」

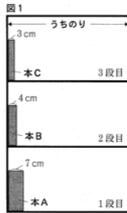
15・6年算数 授業の流れ

喬木第二小学校

○本時のゴール問題を「大」問題と名付け、その問題を解くための手がかりとなる問題を「小」問題と名付けている。

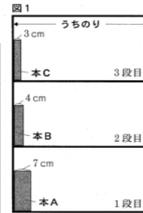
本時のゴール問題  
○厚さ…本A:7cm 本B:4cm 本C:3cm

- 1段目: 本Aだけつめて並べていくと、7冊までは並べられたが、できたすき間に8冊目は入らなかった
  - 2段目: 本Bだけつめて並べていくと、本B1冊が入らないすき間ができた。そのすき間に本C1冊を入れると、すき間なくピッタリ並べられた。
  - 3段目: 本Cだけつめていくと、わずかにすき間ができた。本C1冊を本B1冊に置きかえたら、すき間なくピッタリ並べられた。
- ★このときの本Aのうちのりは何cmか。



ゴール問題の見通し

- 問題文をよく見て、うちのりの長さを求めよう
- 頭の中で本を並べてみて問題文をよく見てうちのりの長さを考える。
- 1段目、2段目、3段目の情報を使って、考える。
- 文章をよく見て本を埋めていけばうちのりがわかりそう。

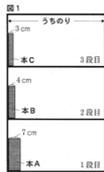


- ①まず子どもたちは、ゴール問題（「大」問題）を読んで、解決の見通しを持つ。  
→ ・どんな考え方、解き方で解決できそうか見通しを持てたら、それを記述し「大」問題に取り組む  
・解決の見通しが持てない場合は、「小」問題に進む。

★「小」問題①

★1段目の様子から、うちのりは何cm から何cmの間だと考えられますか？

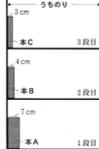
- 厚さ…本A:7cm 本B:4cm 本C:3cm
- 1段目: 本Aだけつめて並べていくと、7冊までは並べられたが、できたすき間に8冊目は入らなかった



★「小」問題②

★2段目の本B、3段目の本Cは最大何冊まで入れられますか？

- 厚さ…本A:7cm 本B:4cm 本C:3cm
- 1段目: 本Aだけつめて並べていくと、7冊までは並べられたが、できたすき間に8冊目は入らなかった
- 2段目: 本Bだけつめて並べていくと、本B1冊が入らないすき間ができた。そのすき間に本C1冊を入れると、すき間なくピッタリ並べられた。
- 3段目: 本Cだけつめていくと、わずかにすき間ができた。本C1冊を本B1冊に置きかえたら、すき間なくピッタリ並べられた。



②「小」問題は複数用意されていて、子どもたちが選択して取り組む。順番に取り組んでも良いし、1問取り組んで、「大」問題の解決の見通しが持てれば、記述しそのまま「大」問題に進んでも良い。

- ・子どもたちはジャムボードに自分の考えや解き方を書き込んでいく。必要に応じて友だちのシートを見ることもできるし、友だちの所に出かけて行って、対話することもできる。
- ・教師は自分のタブレットで子どもたちの進捗状況を把握しながら、つまずきのある子どもへ支援に入ったり、解決のヒントを得られるように、子どもどうしの考えをつなげるコーディネーターの役割を担ったりする。

| B  |  |
|--|--|
| 今日のポイント・使った考え方や「こうしたらできるようになった」というポイント・アドバイスを具体的に書こう   |  |
| 問題に色々大事な隠れ文章があったから、文章問題はしっかり見て考えたいと思った。色々できそうなもあったけど、段2と段3で同じじゃないとだめだから、そうゆうのも考えたらできました。頭を使ってやると少しは楽になりました。  |  |
| 最初に1段目ので何〜何まで入れるかを考えてから後のもんだいを答える。最初に、1段目の情報で、50cm以上〜56cm未満という事がわかったので、考えやすかったです。奏くんは、1段目、2段目、3段目の順番にやっていたけど、私は、1段目、3段目、2段目の順番で、やりました。表を使って、簡単にまとめられたし、わかりやすく説明出来たと思います。 |  |
| 当てはめていくと何がちょうどよくなるかで予想が立てられる。  |  |

- ③「大」問題まで解けたら、「振り返りシート」に振り返りを記入する。解決のために使った考え方、「こうしたらできるようになった」というポイントや友だちから得たアドバイスを具体的に書く。
- ④時間があれば発展問題などに取り組む。

これまでの複式指導では、一斉指導をベースに、ずらしとわたりを行って、学習状況を教師が目視で確認していたが、クラウドのモニタリングができるようになったことで、学級間をわたるのではなく、個人をわたる感覚で個別に指導のタイミングが把握できるようになった。また、あくまで子ども主体の学習をベースにしているのが、教師が主導して学習を開始する「ずらし」が必須でもなくなった。